

絵の合成・分解 ③

◆◆◆どうして絵の合成分解をするの?◆◆◆

PYGLI能力育成問題集の『絵の合成・分解①』や『絵の合成・分解②』のところで説明しましたように、小学校になって、算数でくり上がり、くりさがりの加減計算ができない子どもは、この問題をまちがいます。構成把握能力や合成分解能力が前提となって、数論理能力が創られているからです。

(詳しい説明は、能力育成問題集の『絵の合成・分解①』などの指導上のポイントを参考にしてください。)

◆◆◆指導上のポイント◆◆◆

左端の絵を3分割して、不必要な絵2つとともに並べられています。3分割した絵を見つけるという問題です。

この問題の解答方法についてですが、左側の絵と右側の絵を、先に見つけます。そして、その間に入る絵を見つけるというのが基本です。ただ、左側か右側だけが決定できて、決定できた続きを考える問題もたまにあるかもしれません。また、同じような絵があるときは、空白の距離をみると判断できます。

例えば、下の問題の解答方法として、左から2番目と、真ん中の絵にまず○をつけます。そして、最後に、真ん中の絵として、右端の絵と、右から2番目の絵を比較して、金魚のおびれの位置から右端に○をつけます。

(左端の絵は、絵の向きが違っているので、まず、判断から除外します。つまり、消去します)。

それらを頭に思い浮かべて、1つの絵を完成させてみましょう。

答えがわからない場合は、答えを教えるのではなく、実際に、この絵をコピーしてからパーツごとに切ります。パズルのように組み合わせて、正確な絵を見せてから、もう一度問題を試みましょう。

